

第20回 山梨県介護老人保健施設大会抄録用紙

演 題	おまんと～、おらんと～のこん、何も知らんだけ
副 題	あなた達は、私たちの事、知っていますか？

フリガナ	キョウナン
施 設 名	峡南ケアホームいとみ
フリガナ	スズキ ケン
発表者(職名・氏名)	鈴木 賢
フリガナ	ナトリリョウイチ モチヅキトオル モチヅキユウタ サワノボリケアマネ
共同研究者	名取亮一・望月徹・望月優太・沢登CM

【はじめに】 我々の仕事は、人と人のつながりであり、人間愛に尽きると言っても過言ではない。ある日、利用者とスタッフの会話の中で、「おまんと一、おらんと一のこん、何も知らんだけえ」との言葉。これまでの利用者の歩みについて、ほとんど知らない自分たちに愕然とした。そのことから、利用者がどのような人生を送って、現在の入所まで至ったのか、より深く知る事で、利用者のQOL向上に繋がると考えた。そこで、「利用者のこと知っていますか？」アンケートの実施、利用者、家族にインタビューし、利用者4名の人生史(DVD)を作成し、上映会を開催した。これにより、職員の意識の変化と、今後の課題が明確になったので、ここに報告する。

【方法】

- ① 利用者の人生史の作成 (VTR編集)。
 - ・ 対象利用者の設定 (認知棟2名：一般棟：2名)
 - ・ 利用者、家族の同意、インタビュー。
 - ・ 利用者の好きな音楽と写真を編集しVTR作成。
 - ・ 上映後、再編集し、ご家族にDVDをプレゼント
- ② 「利用者のこと知っていますか？」アンケート (対象：全職種：1回目：6月 2回目：8月)
 - ・ 担当利用者の少年期・青年期・中年期・現在・家族・医療と区分し、「生まれ育った地域」「仕事の苦労話」「終戦前後の暮らし」等、50項目設定
- ③ 利用者の人生史上映会 (7/13)
- ④ 利用者の人生史のVTR上映後のアンケート実施

<取り組み前:アンケート1回目:回収率:約90%>

少年期 ○:4% △:30% ×:56%
 青年期 ○:3% △:38% ×:59%
 中年期 ○:5% △:46% ×:49%
 現在 ○:5% △:37% ×:58%
 家族 ○:7% △:42% ×:51%
 医療 ○:12% △:39% ×:49%

【結果】

- ・ 接し方、話し方を見直し、思いやりをもって、援助していきたい等、接遇について、見つめ直す機会を設けることができた。
- ・ もっとたくさん声かけをして本人の口から、会話を引き出したい。などの意見が聞かれた

<取り組み後:アンケート2回目:回収率:約80%>

少年期 ○:4%(-)△:52%(↑)×:44%(↓)
 青年期 ○:4%(↑)△:47%(↑)×:49%(↓)
 中年期 ○:9%(↑)△:60%(↑)×:31%(↓)
 現在 ○:8%(↑)△:38%(↑)×:54%(↓)
 家族 ○:9%(↑)△:62%(↑)×:29%(↓)
 医療 ○:25%(↑)△:52%(↑)×:23%(↓)

<アンケートから>

『利用者を知る』という意識は高まりましたか？
 高まった70%、少し高まった30%、あまり変わらない・変わらないは0%だった。

<具体的に何が変わったか>

「利用者との会話で、昔の生活について話すことが増えた」「インテーク時の情報に頼らず、会話からの引出し、気づきを意識するようになった」等、回想できる場面の増加やアセスメント力が向上した。

<ご家族より>

「頂いたDVDをお盆の時に、家族全員で見て、涙を流すほど良かったよ」「孫たちは、おじいさんの事を知らないの、良い機会となった」など聞かれた。

【考察】

「QOLのlifeには生活や暮らしだけではなく、人生や生命といった重大な意味を含める場合がある」と箕岡氏が述べているように、介護サービスのプロとして、利用者本人の人生に参加させていただき、その権利を守ることに関わらせていただく意識を持つ事が大切である。

ニーズを理解してサービスを提供する事、受け止めることなど、すべてのスタートは相手をまず知ることから始まる。今回の取り組みにより、利用者を知る大切さを再確認したことから、職員個々が『知っている』から『している』へ、具体的に行動する事が利用者との距離を縮め、相手の心に寄り添う介護ができるようになる。

【まとめ】 今回4名の利用者の人生を知ることで、ほとんどの職員が、多くの利用者に対し、「より深く知りたい」という意識を高める事ができた。今後は『てっ！良く知ってるじゃんけ！』と言われることを目標に、活動を続けていきたい。